



みんなで伝統を継承していく。

4年ぶりの熱戦

川内大綱引



活気づく薩摩川内市



424年目の川内大綱引(県指定無形民俗文化財)が9月22日(金)夜、市中心部の国道3号で行われました。コロナ禍を乗り越え、実に4年ぶりの開催。この日を待ちに待った男衆約3000人が長さ365メートル、直径40センチメートル、重さ7トンの大綱を引き合い、激戦を繰り広げました。20時15分頃、一番太鼓の合図で引き合いを開始。引き隊の邪魔をする押し隊が敵陣に突進してぶつかり合う姿も特徴的で、迫力のある攻防が繰り広げられました。序盤は上方が一気に綱を引き寄せ、その後は膠着状態が長く続きました。21時10分頃、下方が反撃するも、再び上方が引き返し、膠着状態に。そして21時35分頃、双方の一番太鼓が鳴り響き、最後の力を振り絞って綱を引き合うと、その勢い余って綱が切れるという結果に。綱が切れるのは約20年ぶりだそうです。

「ルールに則り、引き分け!」という審判長の判定後、男衆は握手や拍手でお互いの健闘をたたえ、大綱三本締めで今年の大綱引は幕を閉じました。